

時代	縄文時代	
石見西部初の大発見 ～縄文時代の丸木舟～		
おきて 沖手遺跡は、益田道路建設に伴う発掘調査で発見されました。縄文時代後期末～晩期初頭(3,100～3,400 年前)の丸木舟が 2艘出土しました。石見では初めての丸木舟の発見です。		



図1 発掘中の丸木舟

1艘はほぼ完全な形で見つかりました。長さ 5.3m、幅 55 cm、深さ 12 cm。樹種はクスノキの仲間です。舟首側が尖っており、舟尾側が角張っています。



図2 展示中の丸木舟

丸木舟は保存処理が終わり、埋蔵文化財調査センターで展示しています。



図3 遺跡位置図

丸木舟の見つかった沖手遺跡は、海岸から約 1 km離れた平地に位置していますが、縄文時代後期～晩期頃には陸地化しておらず潟湖が広がっていたと考えられます。潟湖内での漁撈や物資の運搬や移動に丸木舟を利用していたと考えられます。

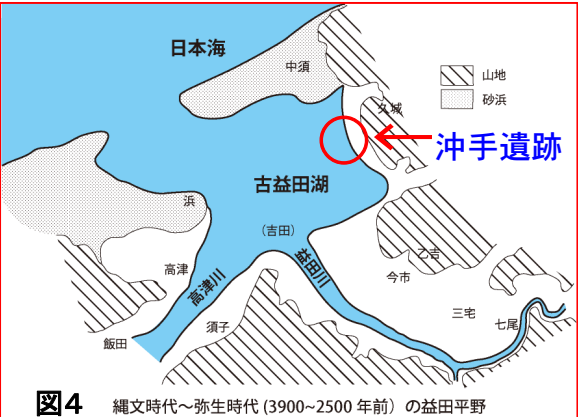


図4 縄文時代～弥生時代 (3900～2500 年前) の益田平野

出典：解説… (図1)『石見路の言伝』特別号3 2007島根県埋蔵文化財調査センター (図2)埋蔵文化財調査センター提供 (図3)『いにしへの島根ガイドブック』3巻1996島根県古代文化センター (図4)…『沖手遺跡 専光寺脇遺跡』2008島根県埋蔵文化財調査センター(一部改変)
ワーク…(丸木舟想像図)『若狭三方縄文博物館常設展示図録』2006若狭三方縄文博物館

～縄文時代の丸木舟～

年 組 名前

益田市久城町の沖手遺跡から、縄文時代後期から晩期初頭(3100～3400 年前)の丸木舟が見つかりました。石見地方では初めての丸木舟の発見です。

Challenge

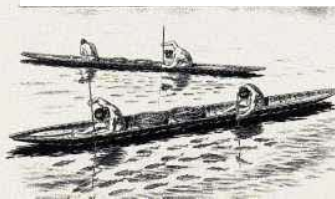


発掘中の丸木舟

左の写真が沖手遺跡から丸木舟が発掘された時の写真です。

見つかった部分は、長さ 5.3m、はば 55cm、高さ 12cm でした。

① 写真を見て、現代の舟とくらべて、気がついたことや疑問を書きましょう。



丸木舟で漁をしている想像図



現代の漁船

益田平野の北側は、この丸木船が使われていたころ、湖が広がっていました。

② 海や湖、川の部分に色をぬりましょう。



縄文時代～弥生時代 (3900～2500 年前) の益田平野



現在の益田平野

縄文時代は、低地に水辺が広がっていました。

③ この時代の人々の生活について、もっとくわしく調べてみましょう。